

第 2630 地区 多治見西ロータリークラブ



WEEKLY REPORT



→ 琵琶湖 隅谷洋里写

第 48 期会長テーマ
ありがとう 広がる笑顔 奉仕の心

例会日 毎週木曜日
例会場 産業文化センター
事務局 多治見市新町 1-23
産業文化センター 4F
TEL 0572-25-5100 FAX 0572-25-5101
Eメール n-rc@joy.ocn.ne.jp
HP <http://tajiminishi.jimdo.com/>
会長 伊藤義弘 幹事 齋藤明

第 2307 例会 2013 年 11 月 21 日 (木)

11 月は R 財団月間

本日のプログラム

点 鐘
ロータリーソング 我等の生業
四つのテスト

会長挨拶
出席・スマイル報告
委員会報告
その他報告
幹事報告



卓 話 直前会長担当
多治見市文化財審議会委員
平林史孝様
「多治見の天然記念物の現状」

点 鐘

卓話のご紹介

平林史孝様

生年月日 昭和 12 年 12 月 11 日 (76 歳)

- ・ 多治見市文化財審議会委員
- ・ 日本自然保護協会自然観察指導員
- ・ 多治見植物の会会員

着信書類

- ・ 2014 年国際ロータリー年次大会 (シドニー)
参加者募集案内送付の案内
2014 年 5 月 31 日 (土) ~ 6 月 4 日 (水)
- ・ ロータリー財団より寄付のお願い

他クラブ例会変更のお知らせ

瑞浪 RC → 11 月 22 日 (金) 点鐘 7:00

「正源寺」早朝例会の為

土岐中央 RC → 11 月 23 日 (土)

エキシブ琵琶湖 親睦家族会の為

多治見リバーサイド RC → 11 月 26 日 (火)

「オースタット国際ホテル」 移動例会の為

先週の記録

◆ 出席報告

会員数 38 名 免除者 5 名 出席義務者 33 名

出席者	欠席者	出席率
26 名	8 名	76.47%

◆ スマイル報告

投函者 19 名 金額 19,000 円

「たじたじ」に飯田建設さんの記事が出て居りました。益々のご発展おめでとうございます。

各務成喜

親睦旅行集合の案内

日時：11 月 28 日(木)

行き先：湖東三山 びわ湖温泉 比叡山

宿泊：里湯昔話 雄山荘

集合場所・時間

産業文化センター 午前 8 時

多治見市文化会館 午前 8 時 15 分



今後の予定

11 月 28 日 29 日 親睦家族旅行

12 月 5 日 定例理事会

11:30 3F 特別会議室

年次総会 例会場

12 月 12 日 卓話 SAA 担当

12 月 19 日 忘年例会

木曽路 18:00



I. G. M. (Dグループ)

日時：11 月 21 日(木) 午後 6 時

場所：松 正

リーダー 伊藤正雄 サブリーダー 関谷泰久

吉川光 山口寛 今井義郎 大嶽政彦

(会長エレクト) 山田正史

(R 情報) 石垣智康 (執行部) 加藤真左子

SAKUJI 作戦推進について 日本における会員増強のために行う SAKUJI 作戦の概要

- ① 会員が、日本にいる信頼できる友人や知人を紹介する。
- ② 紹介者は本人に紹介した旨連絡する。
- ③ 推薦状を会員に配り記入して依頼する。
- ④ 会員が書いた推薦状をクラブで集め地区で取りまとめる。

先週の卓話

焼き物の街 多治見

各務成喜

私が生まれました、大正 15 年の頃、集金は盆と暮れの二回だけでした。

窯焼きさんは、半年間の間は、収入が全く無いので土代金は勿論、燃料の石炭から、米、味噌、醤油まで、土屋が代払いをして居ます。

その立替相当分を窯焼きから茶碗で受取りました。立替代金として受取った茶碗の金額は。その商品代金の二割引でした。それは、当時の商習慣のようでした。だから、土、釉薬の売上げ代金の他の、この収入は多額の収益でした。

その頃の多治見では、素地土を作っている工場を「土や」釉薬を作っている工場を「葉や」陶磁器を焼いている工場を「窯やき」それを販売している店を「茶碗や」と言っていました。

「窯焼き」は多治見の茶碗やが、日本各地の小売商から集金して、多治見へ帰って来るのを待っていて半年分の売上げ代金を貰って、笠原、市之倉に帰って来ます。

市之倉の窯焼きは集金して帰ってくるのが遅い人は、夜の 10 時過ぎごろですので、私の一番最後の集金は「今晚は」と、片足を入れた時に、除夜の鐘が鳴り始めたので、どうしようかな？と躊躇していますと「片足を入れた時は鐘が鳴ったらへなんだ、まんだ、今年やったから入れよ」と言われて集金させて貰ったことが有りました。

集金に来る時に、自宅から重箱の料理と酒を提げてきます。お互いに持参した重箱料理を食べ、酒を酌み交わしながら、全員が終わるのを待っていました。集金を済ますと、荷馬車に乗り合わせて柿野に帰ります。笠原と妻木の境に在る茶店で酒を飲みながら、女将の立膝の間から、零れる赤い腰巻に目がくらんで、丁半博打ですってんてんになってしまいます。全員が帰ったので、やれやれと思っているとトントントンと戸を叩く音がします。何かと戸を開けると先ほど集金して帰った石粉屋でした。「済まんけど、来年半年分、前貸して貰えんやろうか？」と青い顔して言います。父は毎年、誰かがそう言って来ますので、「何じゃ！今年はお前か！」と言うだけで、何も言わずに貸しました。

話が長くなりましたので、赤い腰巻の美しいところで話を終わらせて頂きます。